

# 四街道市 高堀遺跡

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XXI—

平成28年3月

独立行政法人 都市再生機構  
公益財團法人 千葉県教育振興財團

よつ かい どう たか ほり

# 四街道市 高堀遺跡

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XXI—



## 序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第752集として、独立行政法人都市再生機構の物井地区土地区画整理事業に伴って実施した四街道市高堀遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器の集中地点のほか、縄文時代の土坑や陥穴などが検出され、この地域の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成28年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団  
理事長 堀田弘文

## 凡　例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県四街道市物井栗山字高堀669ほかに所在する高堀遺跡（遺跡コード228-010）である。
- 3 発掘調査から報告書の作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、公益財團法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は、第1章に記載したとおりである。
- 5 本書の執筆・編集は、上席文化財主事 池田大助が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、四街道市教育委員会、独立行政法人都市再生機構の御協力・御指導を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/25,000「佐倉」(NI-54-19-9-2)
- 8 本書で使用した航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものである。
- 9 本書で使用した図面の方針は、すべて座標北であり、日本測地系に基づいている。

# 本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査の概要.....	1
1 調査の経緯と経過.....	1
2 調査の方法.....	6
第2節 遺跡の位置と環境.....	6
1 遺跡周辺の地形.....	6
第2章 旧石器時代.....	8
第1節 周辺の遺跡.....	8
第2節 石器集中域.....	9
1 概要.....	9
2 第1ブロック.....	10
3 第2ブロック.....	15
4 第3ブロック.....	16
5 第2・3ブロック.....	16
6 第4ブロック.....	19
7 単独出土.....	20
第3章 縄文時代の遺構と遺物.....	33
第1節 周辺の遺跡.....	33
第2節 検出された遺構.....	33
第3節 検出された遺構外の遺物.....	35
1 縄文土器.....	35
2 石器.....	35
第4章 まとめ.....	36

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第13図 第4ブロック遺物分布図	18
第2図 物井地区遺跡分布図	3	第14図 単独出土遺物分布図	21
第3図 遺跡周辺の地形	4	第15図 旧石器時代の遺物(1)	22
第4図 遺跡調査範囲とトレンチ・ グリッド配置図	5	第16図 旧石器時代の遺物(2)	23
第5図 グリッド表	6	第17図 旧石器時代の遺物(3)	24
第6図 基本土層図	7	第18図 旧石器時代の遺物(4)	25
第7図 旧石器時代の遺物分布状況	9	第19図 旧石器時代の遺物(5)	26
第8図 第1～第4ブロック器種別分布図	11	第20図 旧石器時代の遺物(6)	27
第9図 第1～第4ブロック母岩別分布図	12	第21図 旧石器時代の遺物(7)・ 縄文時代の石器	28
第10図 第1ブロック遺物分布図	13	第22図 縄文時代遺構検出状況図	34
第11図 第2ブロック遺物分布図	14	第23図 SK-001・SK-002・SK-003	34
第12図 第3ブロック遺物分布図	17	第24図 縄文土器	35

## 表目次

第1表 旧石器時代の石器組成表（器種別）	29	第5表 第3ブロック組成表	30
第2表 旧石器時代の石器組成表（石材別）	29	第6表 第4ブロック組成表	31
第3表 第1ブロック組成表	30	第7表 母岩観察表	31
第4表 第2ブロック組成表	30	第8表 旧石器時代出土遺物一覧表	32

## 図版目次

図版1 遺跡周辺航空写真	図版5 SI-003全景（北より）
図版2 昭和62年度 調査前状況写真（北より） 平成12年度 調査前状況写真（北より）	SI-003セクション（北西より）
図版3 第1ブロック遺物出土状況（西より） 第3・4ブロック遺物出土状況（北西より）	図版6 旧石器時代・縄文時代石器 表・裏
図版4 SK-001全景（南西より）、SK-001断面	図版7 縄文土器・発掘調査風景・遺跡調査状況・ 2U-48付近下層確認状況・3U-40旧石器出土 状況

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

住宅・都市整備公団（現・独立行政法人都市再生機構）では、千代田团地とJR総武本線物井駅との間に、約96ヘクタールという広大な物井地区土地区画整理事業を計画した。事業の施行にあたり、千葉県教育委員会による協議が重ねられ、一部については緑地・公園として現状保存するほか、現状変更を必要とする地点については記録保存の措置を講ずることとなり、財團法人千葉県文化財センター（現・千葉県教育振興財団）において事業地内に所在する14遺跡の発掘調査を実施することとなった。昭和59年5月に今回報告する高堀遺跡に隣接する棒山・呼戸遺跡の調査を嚆矢として発掘調査が開始された。

これらの各遺跡ごとの発掘調査および整理作業の進捗と経緯については、当財団より刊行されている『物井地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ～XX』において、それぞれ詳細に記載されている。

#### (1) 発掘調査

発掘調査は昭和62年度および平成12年度の2次にわたり実施された。

##### 昭和62年度 調査区

調査研究部長 堀部昭夫

第3班 班長 矢戸三男

調査期間 昭和62年4月20日～昭和62年6月22日

調査面積 規模2,200m<sup>2</sup>（確認調査）上層220m<sup>2</sup>／2,200m<sup>2</sup>・下層88m<sup>2</sup>／2,200m<sup>2</sup>

（本調査）上層40m<sup>2</sup>・下層132m<sup>2</sup>

調査担当者 調査研究員 糸川道行

##### 平成12年度 調査区

調査研究部長 沼澤 豊

北部調査事務所 所長 石田廣美

調査期間 平成12年5月1日～平成12年5月31日

調査面積 規模1,760m<sup>2</sup>（確認調査）上層-／-m<sup>2</sup>・下層128m<sup>2</sup>／1,760m<sup>2</sup>

（本調査）上層1,760m<sup>2</sup>・下層115m<sup>2</sup>

調査担当者 研究員 沖松信隆

#### (2) 整理

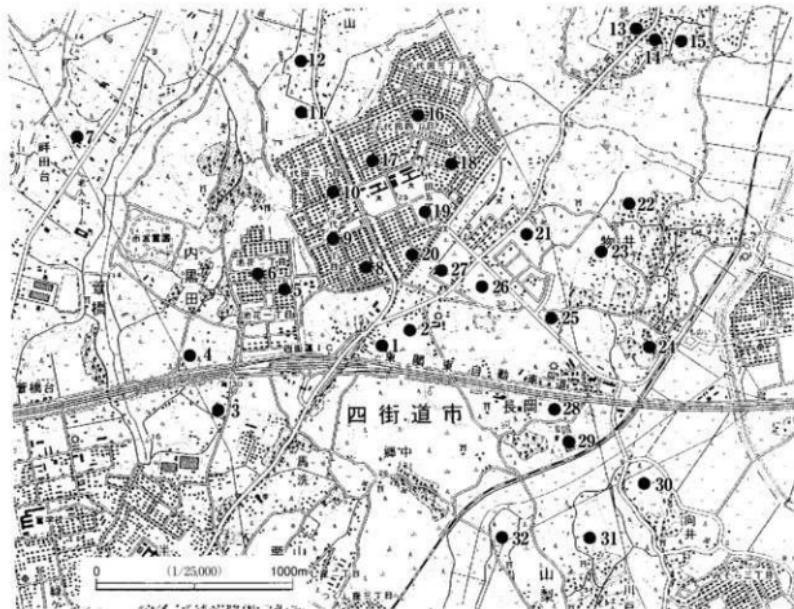
##### 平成27年度

文化財センター長 小久賀隆史

整理課長 岸本雅人

整理期間 平成27年10月1日～平成28年3月15日

整理担当者 上席文化財主事 池田大助

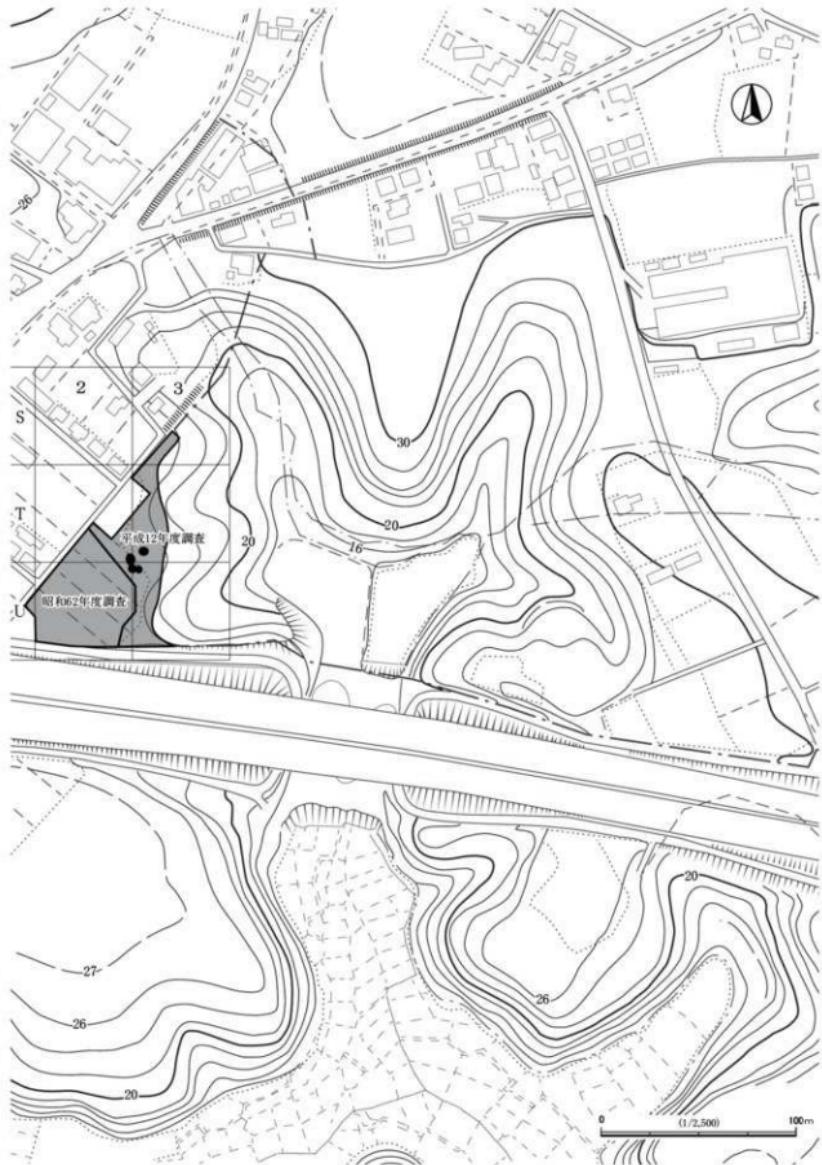


- |              |               |               |              |
|--------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 高堀遺跡      | 10. 千代田遺跡Ⅰ区   | 19. 八木原貝塚     | 28. 後山遺跡     |
| 2. 出口・錦塚遺跡   | 11. 生谷古新山南遺跡  | 20. 千代田遺跡Ⅳ区   | 29. 入ノ台遺跡    |
| 3. 新山遺跡      | 12. 生谷古新山北遺跡  | 21. 御山遺跡      | 30. 西向井遺跡    |
| 4. 大割遺跡      | 13. 殿台遺跡      | 22. 古屋城跡      | 31. 相ノ谷遺跡    |
| 5. 池花古墳群     | 14. 鎌冶内遺跡     | 23. 稲荷塚(新田)遺跡 | 32. 川戸No.1遺跡 |
| 6. 池花(池花南)遺跡 | 15. 下谷遺跡      | 24. 馬場No.2遺跡  |              |
| 7. 畑田台No.4遺跡 | 16. 千代田遺跡VII区 | 25. 小屋ノ内遺跡    |              |
| 8. 千代田遺跡Ⅲ区   | 17. 千代田遺跡VI区  | 26. 新久遺跡      |              |
| 9. 千代田遺跡Ⅱ区   | 18. 千代田遺跡V区   | 27. 清水遺跡      |              |

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 物井地区遺跡分布図



第3図 遺跡周辺の地形



第4図 遺跡調査範囲とトレンチ・グリッド配置図

## 2 調査の方法（第5図）

物井地区の調査に際しては、全城を公共座標に基づいた50m×50mの方眼網を調査対象区全域に設定した。西から東へ1・2・3～、北から南へA・B・C～と設定し、両者を組み合わせて大グリッドとした。さらにこの大グリッドを5m×5mの小グリッド100個に分割し、西から東へ00・01・02～、北から南に00・10・20～と設定し、大グリッドと組み合わせて、2U-00のように表記した。遺構・遺物の出土位置が明確になるよう基準を確実なものとして、調査にあたった。

上層の確認調査は幅2mを基本として、遺跡全体に、確認トレンチを調査対象遺跡の面積の10%を基準として行い、遺構・遺物の検出状況により本調査の範囲を設定した。

下層の確認調査は、上層の確認及び本調査を終了した後に、2m×2mの確認用グリッドを調査対象面積の4%を基準として行い、石器などの出土状況を確認した。確認調査の状況により、グリッドを適宜拡張し、石器の出土状況と範囲を確認しつつ、本調査の範囲が決定された。

なお、平成14年4月1日より、従来の日本測地系による座標値より世界測地系への新座標転換が行われたが、物井地区では、すでに從前より実施されている日本測地系による座標値を変換することは混乱を招くとして、日本測地系を基本として調査を継続することとした。

卷末の調査抄録に記載された座標値は、この日本測地系の座標値である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
S	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
T	10	11								
U	20		22							
0	30			33						
100m	40				44					
	50					55				
	60						66			
	70							77		
	80								88	
	90									99
	0									50m

第5図 グリッド表

## 第2節 遺跡の位置と環境

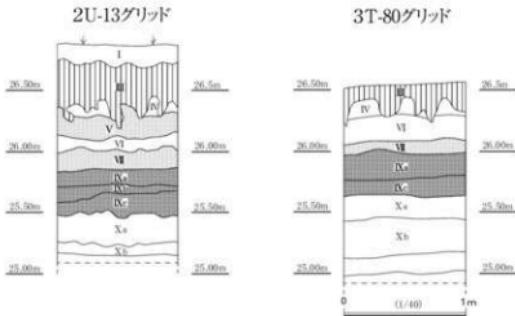
### 1 遺跡周辺の地形（第3図）

四街道市は千葉県の北部に位置し、東京都心から40km圏内にある。北東側に佐倉市、西南には千葉市があり、2市に包まれるように存在する34.7km<sup>2</sup>の自然豊かな市である。平成26年1月の総人口は89,116人であり、都心へのアクセスの良さと大型団地の形成など、首都圏の住宅都市としても機能し続けている。

四街道市の地形は、下総台地と台地を樹枝状に開析する浸食谷からなっており、西から勝田川、手練川、鹿島川、小名木川、並木川の5河川が流れ、鹿島川や小名木川沿いの谷津田は三角州低地となる。また5河川のうち、花見川と合流して東京湾へ向かう勝田川を除く4河川は印旛沼へ流入している。

高堀遺跡は、鹿島川・小名木川水系の小支谷の奥部西側にあり、谷頭を囲む台地上には出口遺跡、出口・鐘塚遺跡が、北には清水遺跡が位置する。

付近は、千葉県北西部に広がる下総台地の中でも比較的標高が高く、立川ロームの堆積状況は良好である。遺跡調査区西端側においてV層が確認され、またIX層は良好な堆積が見られ、IXa～IXcの3層を確認することができた。台地東側では谷津頭となるためであろうか、V層及びIX層の堆積状況に若干の違いがあるため、東西の土層柱状図（第6図）を示した。



- I 表土 黒褐色土  
 II 暗褐色土 下部はソフトロームに移行する  
 III 黄褐色土 いわゆるソフトローム層  
 IV 明褐色硬質ローム ハードローム最上層、V層を明確に分離し得ないため本層最下位がV層第1黒色帶に相当するものと思われる。  
 V 黒色ローム。始真Tnバシスを含む。  
 VI 黒色ローム。褐色スコリア（1mm前後）をまばらに含む。第2黒色帶上部に相当する色の硬質ローム層。  
 IX.a 暗色硬質Aとcに比べ明るい、橙色スコリア（1～2mm前後）VI層同様含む。IX.a～IX.c層がいわゆる第2黒色帶下位相当するものと思われる。  
 IX.b 黒色ローム 第2黒色帶の下部における開拓上下層に比して明るい色調を示す。  
 IX.c 黒色～黒褐色ローム 立川中最も色調の暗い層  
 X.a 黒褐色ローム 橙色スコリア（1mm前後）を少し含む  
 X.b 暗赤褐色ローム やや軟質でスコリアなどはほとんど見られない。

第6図 基本土層図

## 第2章 旧石器時代

### 第1節 周辺の遺跡（第1図）

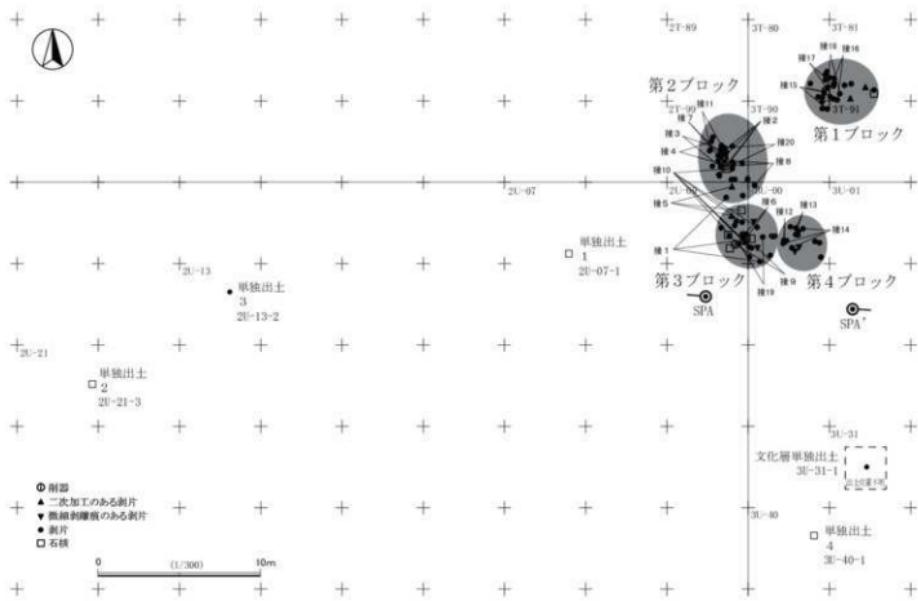
四街道市物井地区内では旧石器時代の資料が豊富に検出されている。対象地区最西端の高堀遺跡から東へ向かって列挙すると、清水遺跡、出口遺跡、出口・鐘塚遺跡、棒山・呼戸遺跡、新久遺跡、御山遺跡、小屋ノ内遺跡、稻荷塚遺跡が挙げられ、報告書はすべて既刊である。ここではこれらのうち、同じ谷を臨む台地上に立地する出口遺跡、出口・鐘塚遺跡についての概要を記す。

出口遺跡では29地点のブロックが検出され、5枚の文化層からなる。第1文化層はⅣc層～Ⅶ層にかけて10ブロック244点が出土し、局部磨製石斧、横長の不定形な剥片を素材とした複数のナイフ形石器を組成する。第2文化層はⅣ層～V層にかけて黒曜石の消費ブロックがみられる。218点の黒曜石のうち、1点を除いたすべてが目視では高原山産である。

器種にはこの時期に特徴的な角錐状石器2点のほか、横長剥片素材で、斜めあるいは水平に近い直線的な刃部を持つナイフ形石器が出土している。第3文化層はV層～IV層から68点が出土し、6ブロックに分けられた。小型の切出形・台形に近い形のナイフ形石器、磨石、敲石のほか、小規模ながら礫群が検出されている。剥片剥離技術には、打面を移動しながら小型剥片を作出するものと、大型剥片から横長もしくは幅広の剥片を作出する技法の2種類がみられる。第4文化層はⅣ層上部～Ⅲ層下部で、1ブロック6点が該当する。横長剥片素材のナイフ形石器、ノッチのある剥片などが出土している。第5文化層はⅢ層上部～Ⅱc層主体の石器群で、1,579点中1,184点を被熱した礫・礫片が占める。円錐形・舟形状に近い細石刃核の出土、ナイフ形石器、搔器、削器、尖頭様石器、磨石など、多岐にわたる器種を組成し、灰色～褐色の珪化した頁岩製の刃器、青みがかった黒曜石製の細石刃など、この時期の下総北西部地域に特徴的な石器群が検出されている。

なお、出口遺跡第1文化層の頁岩2～頁岩5と、本遺跡で出土した嶺岡産珪質頁岩は同じ石材と考えられ、この2つの遺跡間で共通する石材が用いられていることが確認できた。

出口・鐘塚遺跡では、2,700点以上の石器が出土し、21か所の遺物集中地点が5枚の文化層に分かれ。第1文化層はⅨ層中位、第2文化層はⅧ層、第3文化層はⅥ層、第4文化層はV層～IV層、第5文化層はⅣ層上～Ⅲ層である。特に第1文化層は出口・鐘塚遺跡の主体となる文化層であり、集中地点14か所、1,447点の石器からなる。このうちの集中4は南北25m、東西35mの楕円形に石器401点が分布しており、各集中部との接合関係が疎らにみられる。両極技法による剥片剥離技術で作出された資料が目につく。第1文化層の器種組成は、台形様石器17点、ナイフ形石器12点、削器9点、搔器4点、楔形石器14点、石斧9点など、多種にわたる。石材はチャート、頁岩（嶺岡産珪質頁岩含む）、ガラス質黒色安山岩を主体とし、黒曜石、メノウ、凝灰岩、流紋岩、砂岩等が加わる。高堀遺跡と共に検出される石材は、玻璃質青緑色縞のチャートが集中11に、嶺岡産珪質頁岩が集中11・12に確認できた。集中11では18点中8点に、集中12では36点中9点に使用痕が観察された。珪質な石材が刃器として使用された場であることが理解できる。



第7図 旧石器時代の遺物分布状況

## 第2節 石器集中域

### 1 概要 (第4、7図、第1・2・7・8表、図版3)

本遺跡で出土した旧石器時代の遺物は122点であり、4点の単独出土石器を除いた118点が同一時期の所産と考えられる。石器が出土した層位や石器の形態・石材を検討した結果、集中域を空間的な把握から4か所のブロックに区分した。これらのブロックから南に約10m離れて剥片1点が出土しているが、ブロック内に共通する母岩が複数認められるため、同一の文化層に帰属するものとして扱う。石器集中域は平成12年度調査区のはば中央に位置しており、北から入り込む小河川の東側の谷に沿うように半円形に分布する。

集中域の石器組成数は106（出土点数118：以下、組成数に続く括弧の数字は出土した点数を示す）点であり、標高25.5m～26.2mの間に分布する。現場所見の出土層位はIX層であり、断面図への石器投影はIXc層～VI層に含まれた。土層断面の位置は第8・14図、石器を投影した図は第8・10～14図に示した。

安定した土層の堆積状況であることや、石器の分布幅を鑑みると、生活面はIX層中～上部にあると考えられる。

器種組成は削器1点、二次加工のある剥片5（6）点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片87（98）点、石核9点である。敲石や石斧など、大型の剥片や自然礫を素材とした加工工具や礫、礫片の出土はない。石材組成は、多い順にチャート41（44）点、ガラス質黒色安山岩34（40）点、嶺岡産珪質頁岩10（12）点、トロロ石8点、珪質頁岩5点、玉髓4（5）点、流紋岩4点である。千葉県のIX層段階では典型的な石材組成である。本遺跡から北東へ300mほどの距離にある清水・新久遺跡の石材観察表を参考に、出土石

器の母岩別観察表を作成した（第7表）。母岩の分布はブロックごとにまとまっている傾向があり、10m弱離れた第1ブロックと第4ブロックとでは共通する母岩はない。一方、隣接する第2・3ブロックでは、ブロック間での接合関係が3個体認められる。このため第3ブロックの記載後にブロック間接合の資料を掲載した。

単体で出土した器種を優先させて作図したため、後続する接合図中に主要な器種を含んでいるものがある。また、分布図には石器引出線の先端に挿図番号を付し、集合点には接合番号を付した。

以下、個々のブロックについて記載する。

## 2 第1ブロック（第8・9・10・15図、第1～3・7・8表、図版3・6）

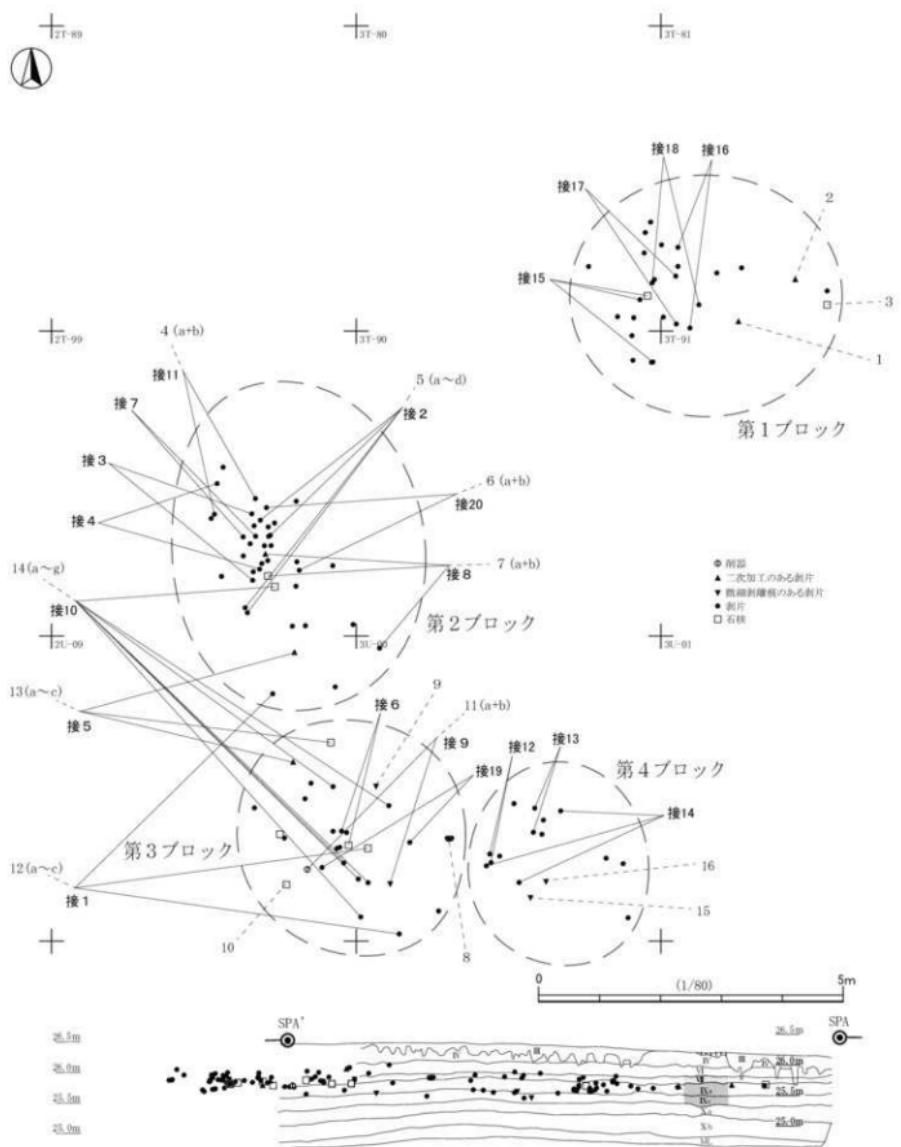
### 分布状況

3T-91グリッドを中心とした直径4m内に27（28）点が分布する。石器の総重量は126.5gであり、1点平均は4.5gと比較的軽い。垂直分布は25.58m～25.84mであり、上下幅は26cmほどだが、西端の剥片1点を除くと25.65mにはば直線状の分布をみせる。投影された土層はIXa層である。器種は二次加工のある剥片と石核が各2点、剥片23（24）点である。石材はトロトロ石1点、珪質頁岩3点のほかはすべてチャートで、なかでもチャート5、チャート7の2母岩で18点と、数としては半数以上を占めるが、チャート5の多くは微細な剥片であり1点の平均重量が0.87gと非常に軽い。何らかの石器を調整する際に削り出された碎片であろうが、製品となる石器及び石核は出土していない。チャート5、チャート7は色ガラスのように珪化度の高い部分があり、高堀遺跡から直線距離で約100km西の奥多摩町海沢に分布する緑、青、紫等の縞模様を成した光沢の強いチャートと大変近似している<sup>(1)</sup>。平成27年現在、同様の特徴を持つチャート産地は海沢層以外に知られておらず、仮に「海沢層のチャート」と呼ぶならば、この「海沢層のチャート」は、谷を挟んで東に位置する出口・鐘塚遺跡でも利用されている。黒曜石や安山岩と違って堆積岩は科学的な成分分析による産地特定が難しく、推定の城を出ないが、房總半島西部の分水界のIX層中部～上部段階の遺跡では「海沢層のチャート」が頻出している。上記の出口・鐘塚遺跡をはじめ、八千代市坊山遺跡、白井市復山谷遺跡、印西市泉北側第3遺跡、同瀧水寺裏遺跡、柏市大割遺跡、同小山台遺跡など、枚挙に暇がないが、これらのうち、坊山、泉北側第3、瀧水寺裏、小山台遺跡では環状ブロック群を形成している<sup>(2)</sup>。

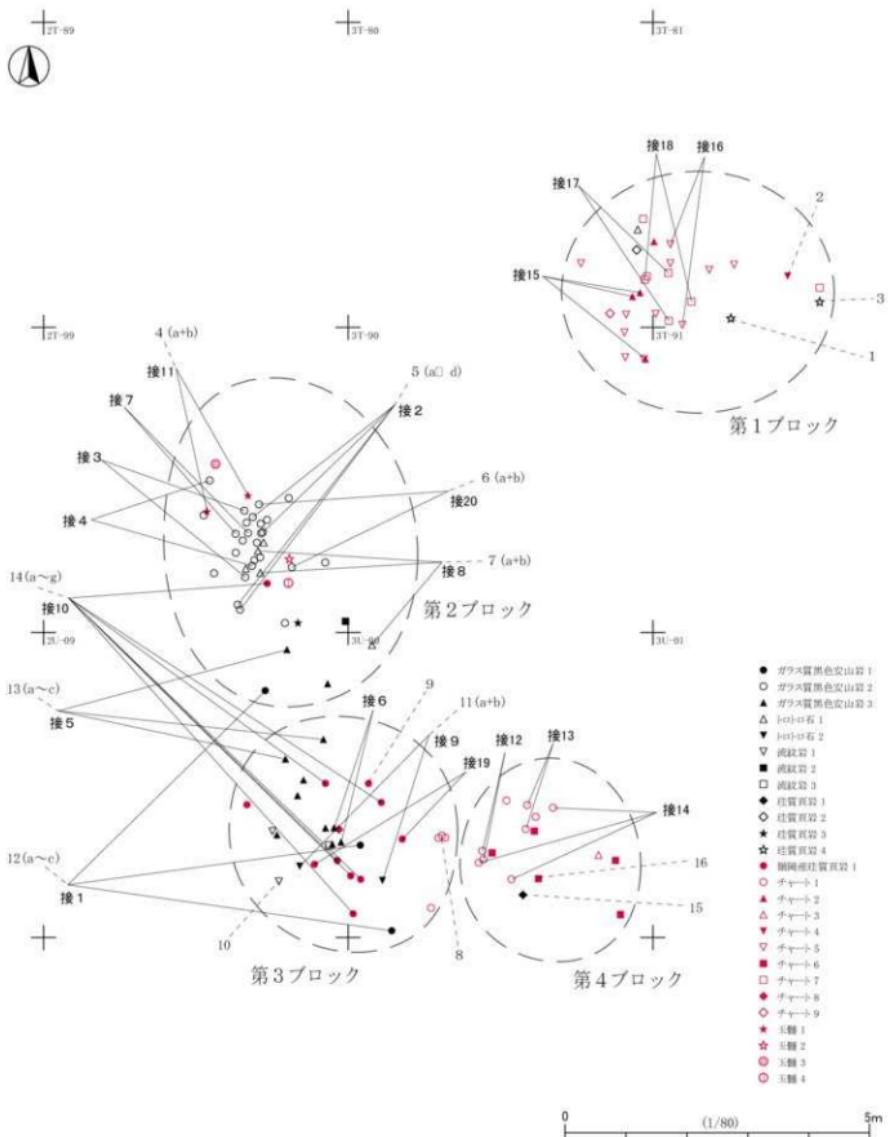
### 出土石器

1・2は二次加工のある剥片である。1は3の石核と同様、珪質頁岩4を母岩とするが接合はしない。主要剥離面を切る剥離は右側縁に連続する微細剥離痕のみだが、上面、右側縁にも同様の加工痕が観察されることから、剥離後の調整・加工痕であると思われる。複剥離打面の稜線上が加撃され、打点対縁の広い剥片となっており、末端は背面へと回り込んでいる。稜線は磨耗し光沢を帯びている。2はチャート4を母岩とする。打点対縁は広く、八の字状に聞く側縁から緩い円弧状に末端縁辺が続く。左端部には欠けた後を補修するような微細な剥離痕があり、縁辺は光沢をもつ。背面上方の複数の剥離面によって器厚が減じられているが、これを剥離後の調整と捉えるならば、台形様石器の平坦剥離調整である可能性がある。

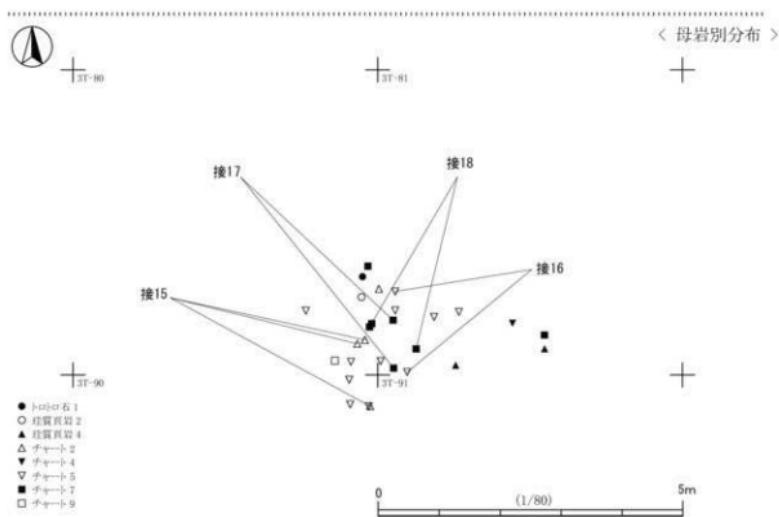
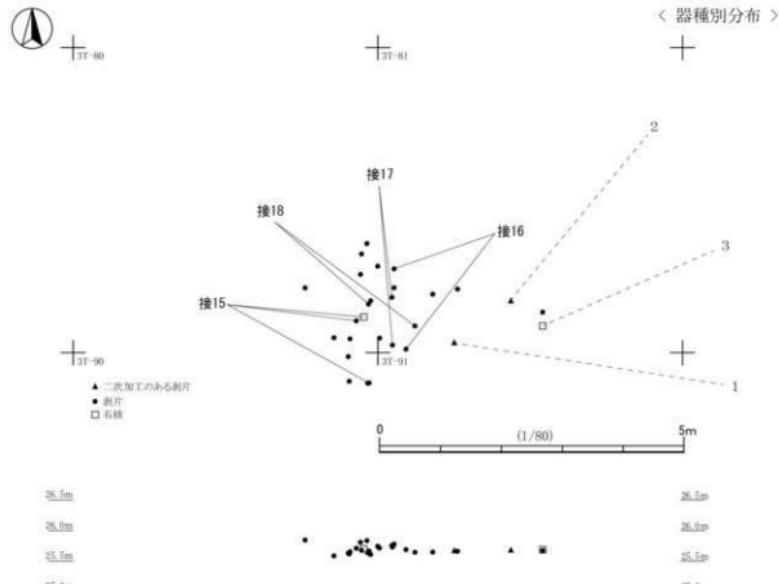
3は求心的な剥離痕のある石核である。尖端と、微細な剥離痕、後に摩耗痕を持つ。自然面は凝灰岩質で、剥離面の緻密で光沢のある質感とは大きく異なるノジュールである。摩耗光沢を持つ部分を実測図に示した。



第8図 第1～第4ブロック器種別分布図

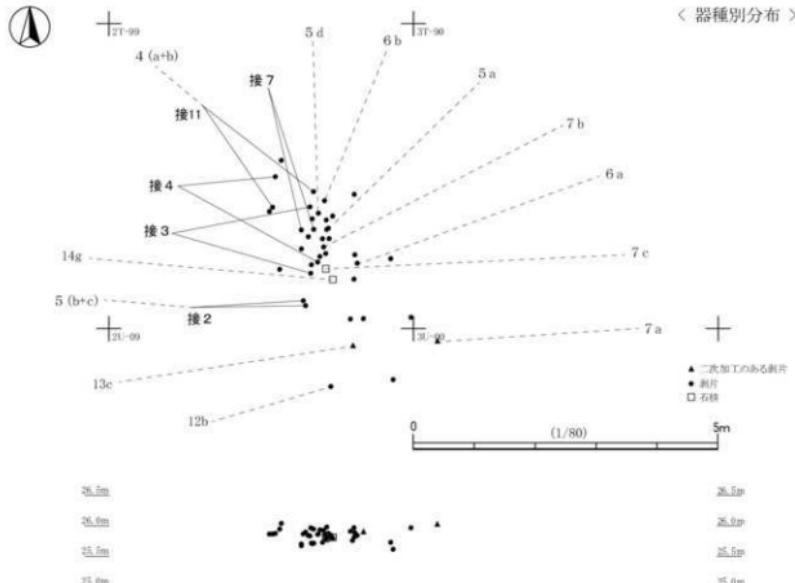


第9図 第1～第4ブロック母岩別分布図

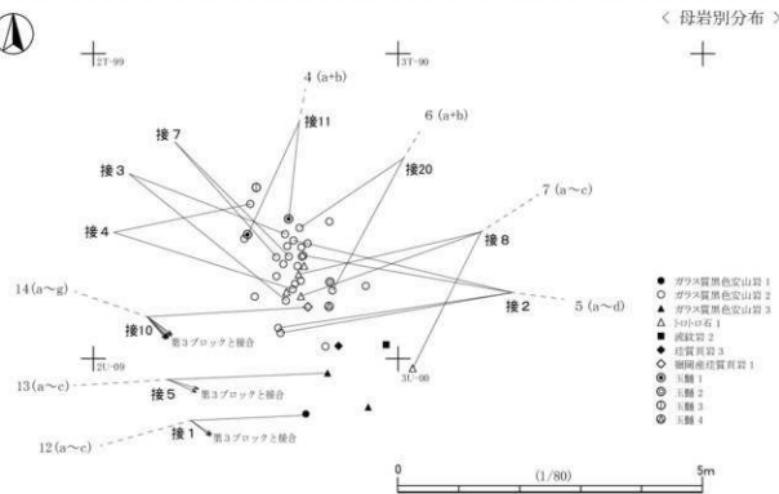


第10図 第1ブロック遺物分布図

< 器種別分布 >



< 母岩別分布 >



第11図 第2ブロック遺物分布図

### 3 第2ブロック（第8・9・11・16図、第1・2・4・7・8表、図版6）

#### 分布状況

石器は2T-99グリッドの南東に集中し、2U-09、3U-00グリッドにかけて散漫に分布する。出土した石器42点は標高25.61m～26.03mに分布し、その差は42cmである。器種は、二次加工のある剥片2点、剥片33（38）点、石核2点である。第2ブロック北西の集中部を構成する石材は、ガラス質黒色安山岩2の26点、トロトロ石1の5点、玉髓1～4の5点である。ガラス質黒色安山岩1、流紋岩2、珪質頁岩3、嶺岡産珪質頁岩1は各1点のみの出土であり、ブロックの南東側に散漫に分布する。ガラス質黒色安山岩3もまた南側に2点出土しているが、このうちの1点は第3ブロックと接合関係がある。第2ブロックでは石核2点が近接して出土しているが、いずれも接合資料であり、3点接合のトロトロ石1には二次加工のある剥片1点を含む。もう一方の嶺岡産珪質頁岩製石核は、隣接する第3ブロックの剥片4点と接合した。分布密度の濃い北西側に小・細片、疎らな南東側には加工・使用された石器がみられる。

#### 出土石器

4は2点接合の工程初期に弾かれた剥片であり、2点間の距離は70cmである。左端部は断面三角形状で、自然面の凹凸に乘じた剥落がみられるが、人為的なものか否かは判別できない。剥離面は濃い橙色の玉髓1が母岩である。

5～7は接合資料である。5は楕円礫が素材で、剥片4点が接合した。長軸端部を飛ばした打面から5aが剥離された後、5（b+c）に至るまでは複数回の加撃があり、別打面から剥片5（b+c）が剥離される。5dは別工程上で弾かれたもので打点ではなく、節理折れがみられる。6は剥片2点が接合している。5と同じくガラス質黒色安山岩2を母岩とするが、接合しない。6aは複剥離打面を持つ。自然面と剥離面の稜上が加撃された幅の広い剥片である。下部は折れて遺存していない。折り取られた可能性もあるがその後の加工痕はみられない。6bは打点直下で折れている。右下縁辺には主要剥離面を切る剥離痕が残っているが、人為的なものかどうかは不明である。縁辺の薄さや下端部の新しい欠けを考慮すれば、ヒトが介在しない自然の欠けである可能性が高い。7は二次加工のある剥片1点、剥片1点、石核1点の接合資料である。原石は大人の拳大ほどの亜円礫である。黄土色の自然面と灰白色の剥離面をもつトロトロ石1が母岩であり、稜は風化により丸みを帯びる。剥離の工程をみると、厚みを減ずるように分割してから、剥離面を打面に設定し貝殻状の剥片を4枚以上作出しているのがわかる。このうちの7aは二次加工のある剥片で、折り取り痕と使用痕がみられる。平坦剥離による調整はみられないが、折り取りを基部調整とすれば台形様石器とも捉えられよう。先例に乗じて素材打面部を基部に、刃部を上部に据え実測した。広い打点対縁が刃部として使用され、擦り減っているため、接合部分に若干の間隙が認められる。基部が素材の打面部で、幅の広い縁辺に使用痕があり、側縁に折り取り成形のある石器は、隣接する四街道市出口・鐘塚遺跡<sup>(3)</sup>第1文化層、成田市南三里塚宮原第1遺跡<sup>(4)</sup>第1環状ブロック群・第3環状ブロック群、印西市泉北側第3遺跡<sup>(5)</sup>第1文化層の環状ブロック群などに台形様石器として報告されている。7bは多方向からの剥離と自然面が背面に残る剥片である。7cは7a・7b剥離後に5枚以上の剥片剥離が行われた痕跡があり、剥離作業に十分な大きさを保ったまま遺跡内に残されている。

#### 4 第3ブロック（第8・9・12・17図、第1・2・5・7・8表、図版3・6）

##### 分布状況

第3ブロックは北側の第2ブロックから続く集中域で、2U-09、3U-00グリッドの直径3.5m円内に分布する。出土した石器は標高25.55m～26.07mに包含され、その差は52cmと開きがあるが、共通する母岩は複数あり、接合する資料がみられる。器種の内訳は、削器1点、二次加工のある剥片1（2）点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片18（21）点、石核5点の計27（31）点である。第2ブロックと比較すると、石核が5点と多出し、接合資料の中には削器を組成するものもある。石材は、多い順にガラス質黒色安山岩9（11）点、嶺岡産珪質頁岩8（10）点、チャート5点、流紋岩3点、トロトロ石2点である。母岩ごとにまとまりつつも、第2ブロックとの間で最長5.6mの距離で接合する資料がある。なお、チャート1は4点出土しているが、そのうちの3点は出土位置が同じである。

##### 出土石器

8は両側縁が収束し、鋭い末端部をなす二次加工のある剥片である。左側縁は主要剥離面側からの末端が回り込んでいるが、8倍に拡大すると帯状の光沢面が2条みられる。先端は刃こぼれか。打点付近の側縁には、明確な打点はないが、複数の剥離痕が入っている。基部加工と捉えるには弱い調整だが、同様の二次加工のある剥片は複数出土しており、何らかの刃器と考えられる。図では基部を下、刃部を上に提示した。

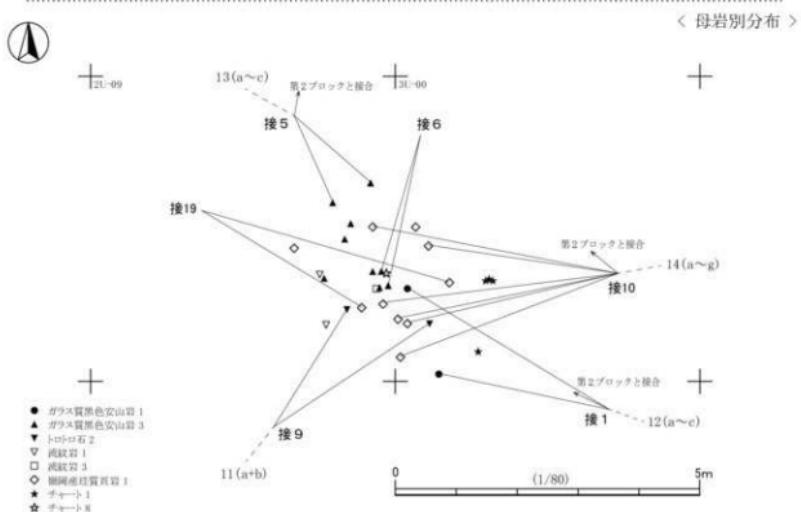
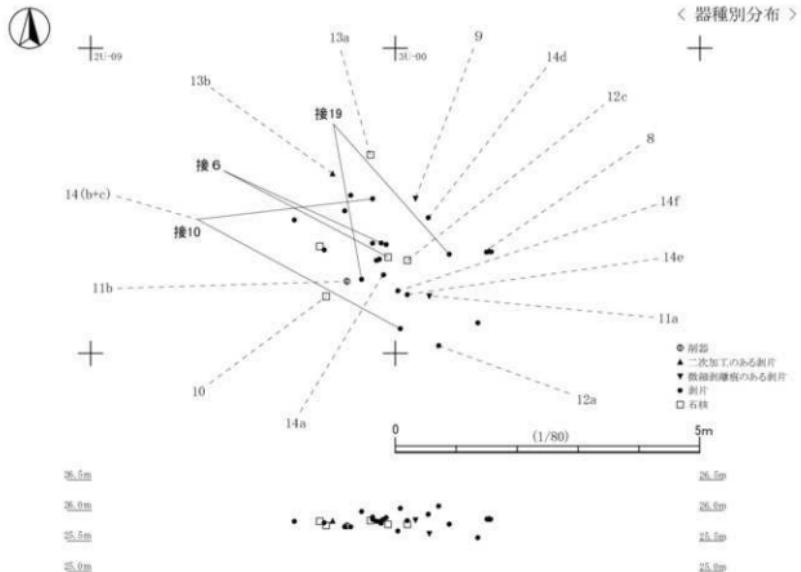
9は微細剥離痕のある剥片である。打面部を除いた縁辺に微細剥離痕が観察される。特に左・下縁辺には顕著であり、二側縁が収斂する端部は鋭角となっている。14と同一母岩の嶺岡産珪質頁岩1であるが接合しない。10は横長い打点対縁の広い剥片作出を目的とした石核である。板状素材の平坦面が加撃され、3片以上の剥片が剥離される。青灰色の剥離面と淡黄褐色で微光沢のある自然面をもつ流紋岩1が母岩である。第3ブロックではこのほかにも同一母岩の石核が出土しており、推定される原石の大きさは小児の拳大であろう。なお、流紋岩2であるが、やや黄土色が強いことを除けば流紋岩1とほぼ同じ特徴を持つ。

11は接合資料である。削器と微細剥離痕のある剥片が接合した。厚みのある素材剥片の正裏両面が周縁から削ぐように剥離され、縁辺の薄い剥片が作出されている。11aはこのうちの1片であり、刃こぼれが縁辺に連続する。接合時の隙間は末端部で1.5mmである。11bの右側縁中ほどには、裏面側からの加撃でできた剥離の棱を潰すかのように66°～68°で細かく加工され、抉入部が形成される。母岩のトロトロ石2はこの2点のみの出土であり、2点間は1.5m離れる。

#### 5 第2・3ブロック（第8・9・11・12・18・19・20図、第1・2・4・5・7・8表、図版3・6）

##### 分布状況

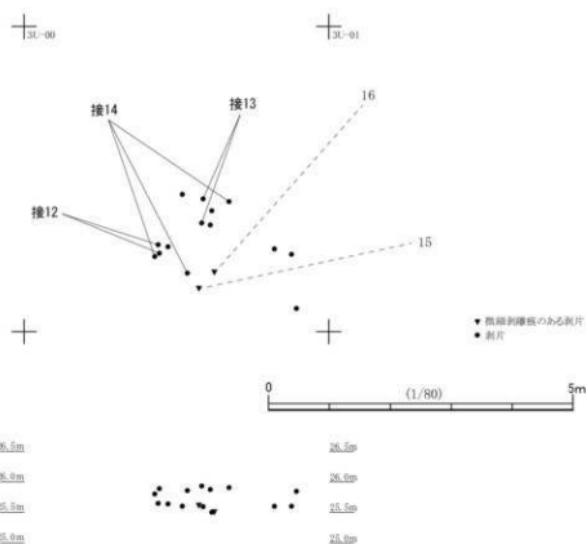
個々のブロックの器種・母岩の分布状況は上述のとおりである。両ブロックではガラス質黒色安山岩1～3、トロトロ石1・2、流紋岩1～3、嶺岡産珪質頁岩1、チャート1・8、玉髓1～4の16母岩が出土しているが、共通するものはガラス質黒色安山岩1・3、嶺岡産珪質頁岩1の3母岩のみで、これら3母岩ともブロック間で接合する。第2ブロック、第3ブロックを1つの集中域と捉えた場合、個々の母岩は小さなまとまりを作っており、同じ母岩が7mを越えて分布するものはない。母岩ごとに剥離作業が行われ、加工された製品は遺跡外へと持ち出されたか、あるいは作出されてすぐに使用され、不要の小片や



第12図 第3ブロック遺物分布図

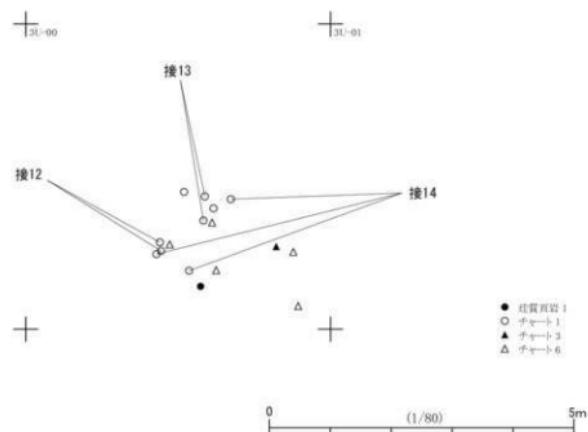
A

## &lt; 器種別分布 &gt;



A

## &lt; 母岩別分布 &gt;



第13図 第4ブロック遺物分布図

残核と一緒に廃棄されたものであろう。

なお、3U-31グリッドで単独出土した嶺岡産珪質頁岩1の剥片であるが、第3ブロックの中心から南東方向に16m離れたところでグリッド一括上げされた石器である。おそらく、小児の拳大ほどの原石を横方向に設置し、打面を作出したのち原礫面を大きく剥ぎ取ったもので、剥離作業の極めて初期の段階の剥片である。原礫面が剥離された素材石核は、第2・第3ブロック内で10枚の剥片となり、1片は使用され、残核は第2ブロックに遺棄されたと推測する。

#### 出土石器（第2・第3ブロック間接合資料）

12は石核と剥片が接合した。原石は隅丸三角形状で、端部から剥離作業が始まり、平坦面を交互に剥離したのちに側縁の12（a+b）が剥がされている。12aと12bは石核12cを挟んで4.5m離れている。二次加工痕・使用痕はみられない。石核に残された剥離痕数はわずか4面で、上部に限られる。剥片作出可能な質・量を十分に備えていると思われるが、作業はこの先行われていない。石材の自然面はローム粒を纏った黄土色、剥離面は濃灰色で黒色の斑晶が疎らな、下総台地Ⅸ層では一般的にみられるものであり、ガラス質黒色安山岩1が母岩である。

13は石核と二次加工のある剥片の接合資料である。3点は1.8m内にまとまって分布する。13aは初期工程で剥離された石片で、下部に2面の剥離痕がみられる。一片は自然面打面から剥離された狭長な剥片、次に平坦な剥離面から加撃され、厚みのない横長を呈していたものと推定される。13（b+c）の末端は二次加工後の使用痕が観察される。使用痕は左側縁下部に顕著であり、8倍ルーペでは磨耗痕が細い面状にみられる。母岩であるガラス質黒色安山岩3は、第2ブロックの南東から第3ブロックの北西にかけて11点が分布する。

14は剥片5（6）点と石核1点の接合資料である。母岩である嶺岡産珪質頁岩1の分布状況は前述のとおりであり、第3ブロックを中心に12点出土している。石核は第2ブロック、原礫面が背面の大部分を占める大型剥片は調査域の南側から単独出土し、その他の10点は第3ブロックに分布する。ブロック外で外皮を剥がしてから素材石核を持込み、剥離作業が行われたと推定する。接合した7点からは、稜や打点付近の調整を行なながら刃器となる縁辺の鋭い剥片作出を意図した痕跡をみることができる。14aは底状の打面縁辺を削除した際の剥片である。14（b+c）は打点直下で縦折れした剥片である。14d、14e、14fは同一打面から剥離された剥片であるが、形状は一様ではない。14dは長さ15mmと小型、14eは打点対縁が広い貝殻状、14fは両側縁が並行する縦長の剥片である。いずれにも加工痕・使用痕は看取されない。14gが剥離された後も同じ打面から3回以上加撃されるが、有効な剥片剥離には至らない。

## 6 第4ブロック（第8・9・13・20図、第1・2・6～8表、図版3・6）

#### 分布状況

出土した石器の標高は25.50m～25.93mで、その差は43cmである。14（16）点4母岩を数える。器種組成は微細剥離痕のある剥片2点、剥片12（14）点であり、母岩の出土点数は珪質頁岩1が1点、チャート1・3・6がそれぞれ7（9）点・1点・5点である。このうち他ブロックと共に通する母岩はチャート1のみで、第3ブロックには4点出土している。第4ブロック内では7点3個体が接合するが、ブロック間接合はみられない。

## 出土石器

15・16は微細剥離痕のある剥片である。両資料とも長幅がほぼ等しく、背稜がなだらかで厚みのない貝殻状を呈している。15の背面には器面を削ぐような剥離痕があるが、縁辺の薄い剥片作出を目的としたものと思われる。自然面と主要剥離面のなす直線状の周縁部と右側縁に微細剥離痕が廻り、右側縁に残る刃こぼれは主要剥離面側に顕著である。自然面は丸みなく平坦で、稜の高まりもほとんどない。嶺岡産珪質頁岩1を母岩とするが、第2・3ブロックの接合資料14よりも工程上は早く剥離されている。16の打点は複剥離打面の後上であり、打面以外の縁辺には刃こぼれや光沢がみられる。透明感のある青、黄緑、紺、薄茶色が層状に重なる玻璃質なチャート6が母岩である。チャート5～7は近似し、同石材の可能性があるが、その中でも特に珪質で色彩豊かな部分が使用されたものであろう。

### 7 単独出土（第14・21図、第7・8表、図版6）

単独出土した石器4点の分布状況は第14図に示した。

17は2U-07グリッドの南東端から出土した黒曜石製の石核である。長幅厚がほぼ等しく、一面一剥離の様相だが、小型化するにつれて打面と下端が固定され、一方の加撃痕が多くなるようである。稜上には細かな潰れ状の調整加工がみられる。土層柱状図への投影ではVI層に包含されるが、調査時の所見はVI層と記載されている。石材は、夾雜物をほとんど含まず、わずかに赤みのある透明度が高い黒曜石である。あくまで目視であるが、信州和田峠あるいは小澤で産出する資料に近似する。高堀遺跡で唯一出土した黒曜石である。

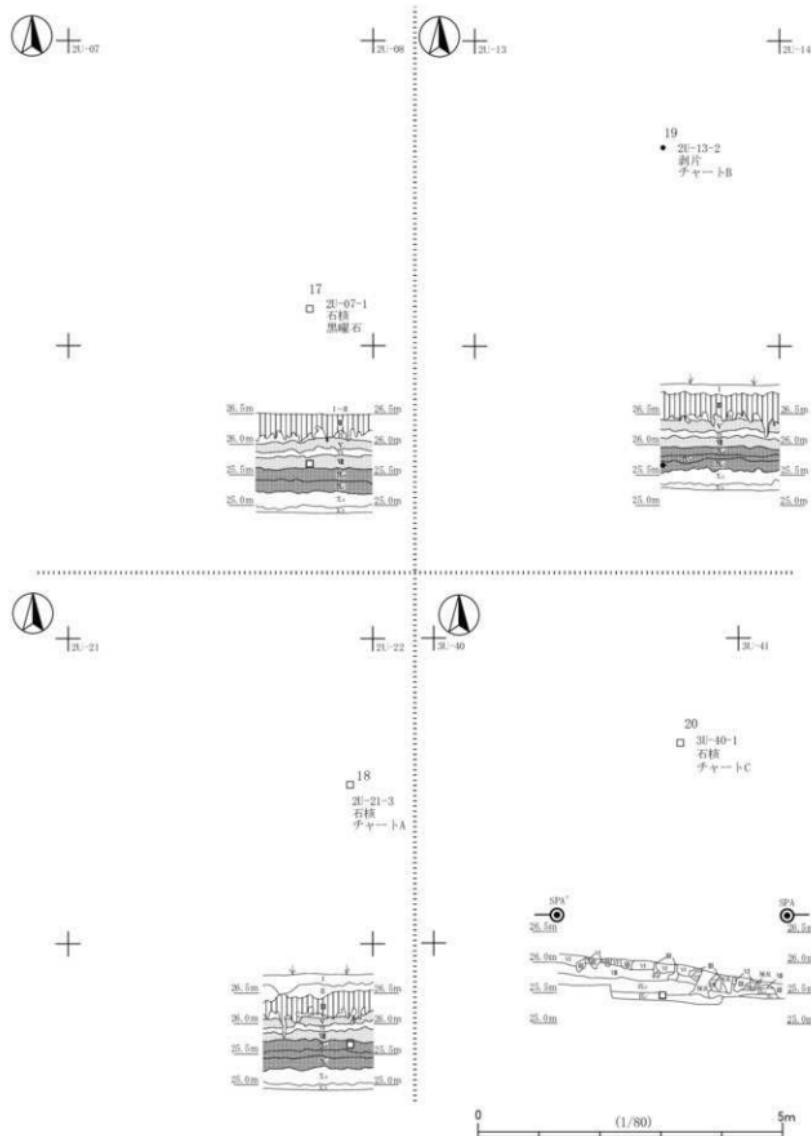
18は2U-21グリッドから出土した板状の剥片を素材とした石核である。作業面は正面、左側面、下面であり、左側面と下面からは横長剥片が作出されたものと推測される。右側縁の下方に微細剥離痕が並ぶ。裏面は剥離情報が残る風化剥離面である。濃～薄灰色のチャート製で、黒色部分に強い光沢がある。IX層上部に包含される。

19は2U-13グリッドから出土したチャート製の剥片である。厚みのない縁辺は鋸歯状の欠けや折れによって本来の形状が損なわれており、使用痕や加工痕の有無は不明である。石材は褐色を基調に、黒色の網目状構造をもち、所々赤みや緑色を帯び、光沢を帯びる。IXc層上方、IXb層と接するあたりに包含される。

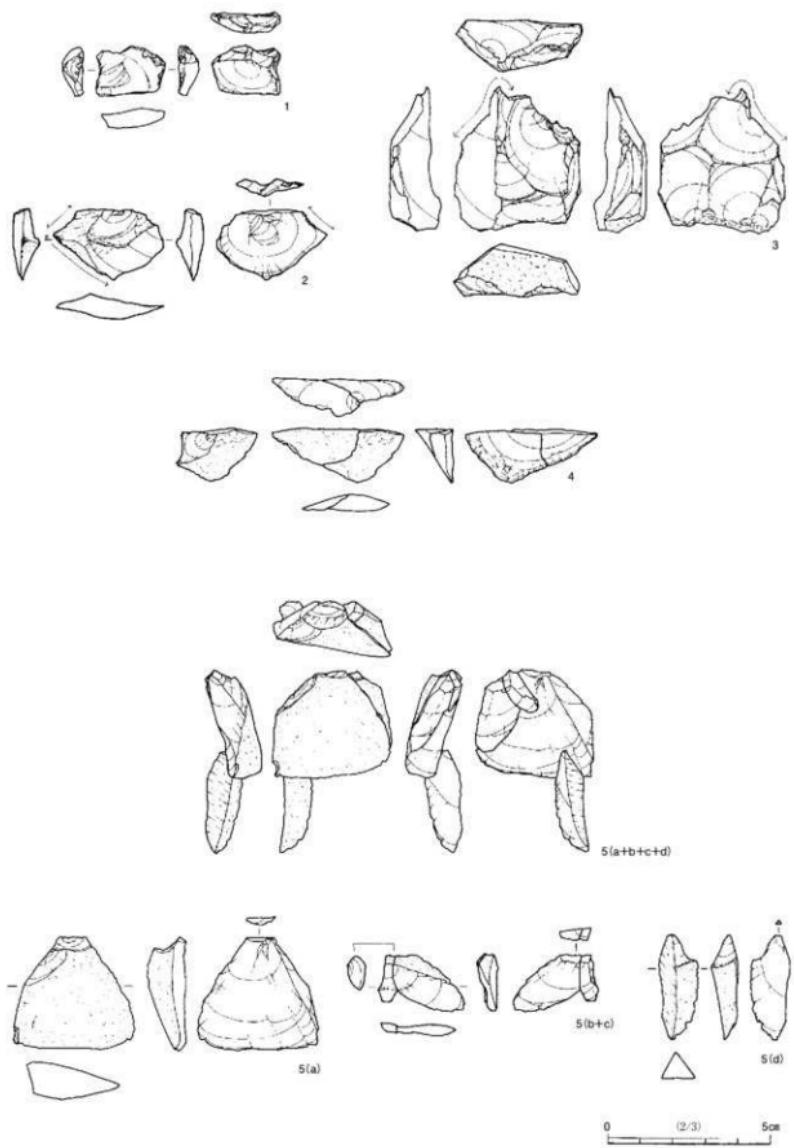
20は3U-40グリッドから出土したチャート製の石核で、工程初期の剥片を素材としている。作出された打面から同一方向に5面以上が剥離されているが、剥片の出土はない。裏面は細かな爪状傷跡が万遍なくついた擦りガラスのような原礫面で、黒色～黒褐色の剥離面との色調差が大きい。IXc層上方、IXa層との境から出土した。

## 参考文献

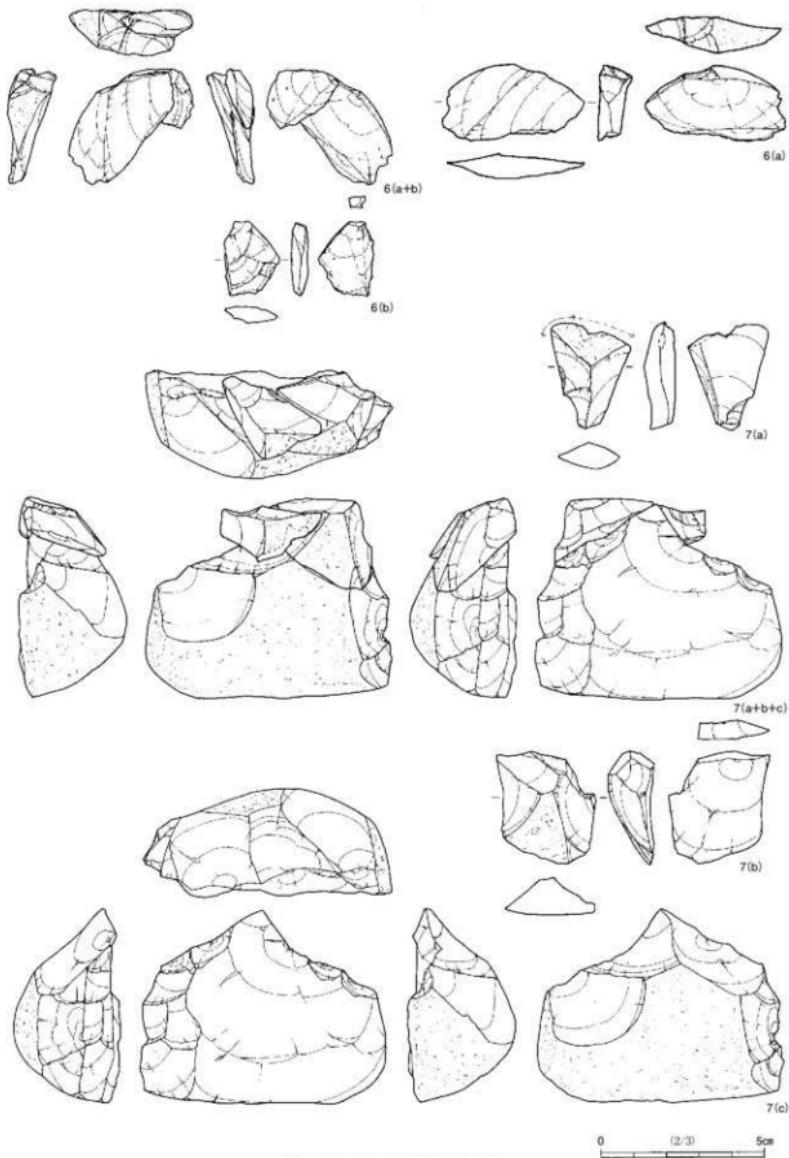
- (1) 田村 隆・国武貞克 2006「下野－北總回廊外縁部の石器石材（第3報）」『千葉県史研究』第14号 贊助千葉県史料研究財團
- (2) 山岡磨由子・青山幸恵 2013「環状ブロックの“場”その2・神山型彌器に類する資料について－泉北側第3遺跡・復山谷遺跡（6次～8次）補遺－」『研究速報誌』74号（公財）千葉県教育振興財團
- (3) 田岡誠道 1999「四街道市出口・鍛塚遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II－」 贊助千葉県文化財センター
- (4) 宇井義典・布施 仁 2004「南三里塚宮原第1遺跡・南三里塚宮原第2遺跡」 贊助千葉都市文化財センター
- (5) 山岡磨由子 2011「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X XII III -印西市泉北側第3遺跡（下層）-」 贊助千葉県教育振興財團



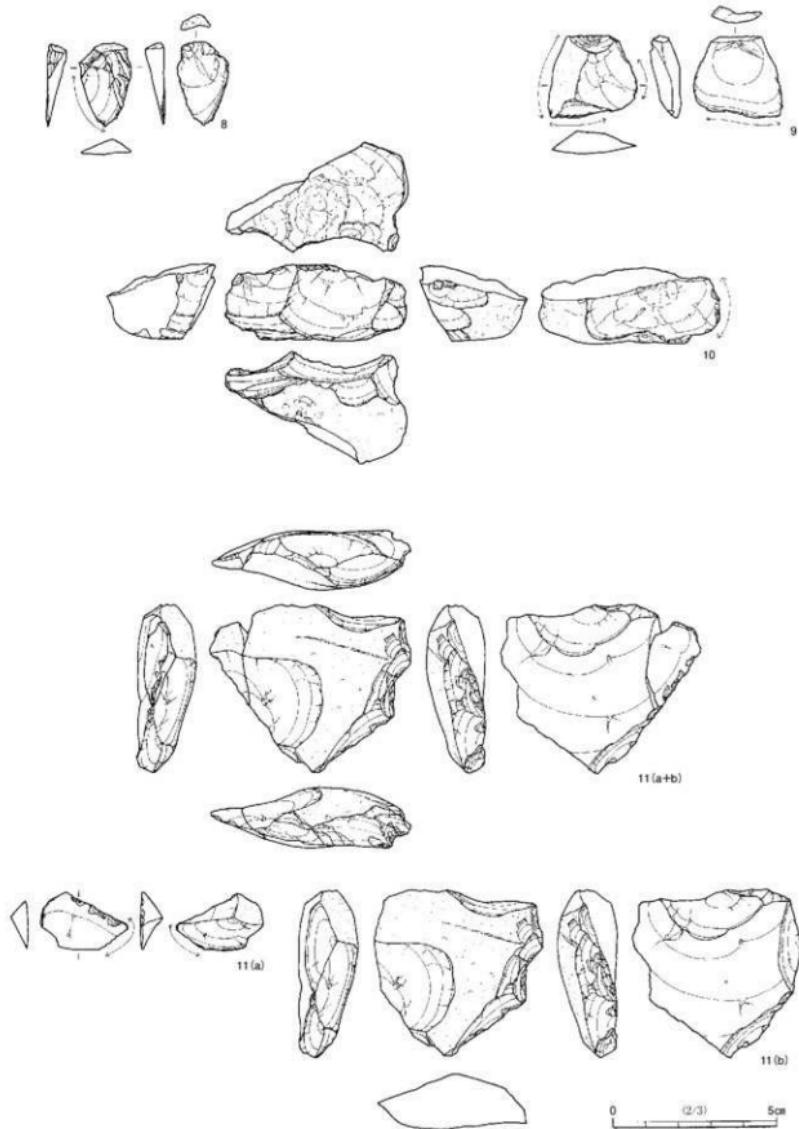
第14図 単独出土遺物分布図



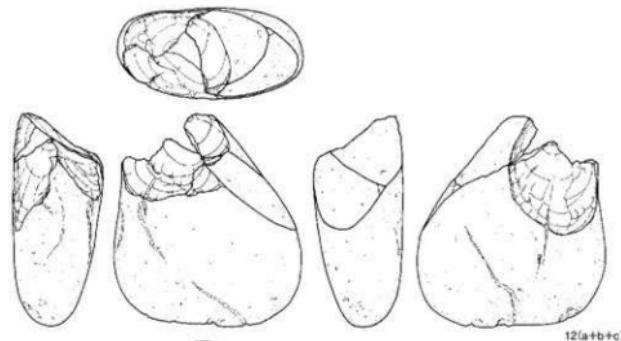
第15図 旧石器時代の遺物(1)



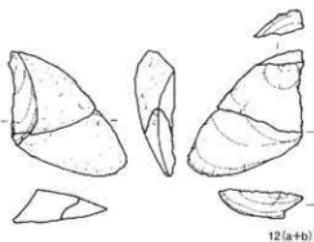
第16図 旧石器時代の遺物(2)



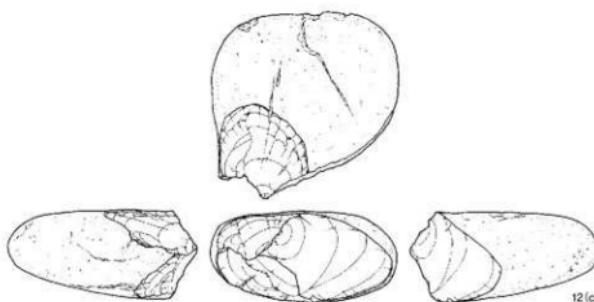
第17図 旧石器時代の遺物(3)



12(a+b+c)



12(a+b)

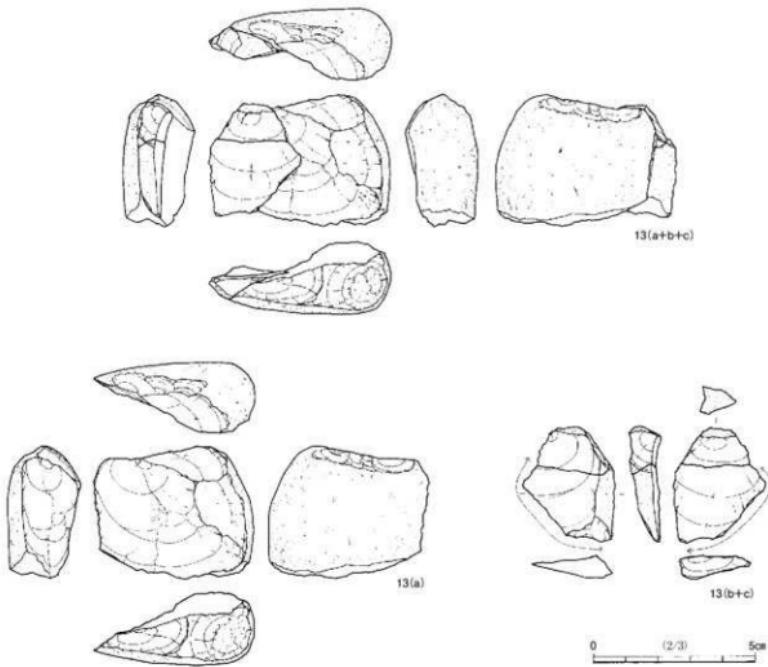


12(c)

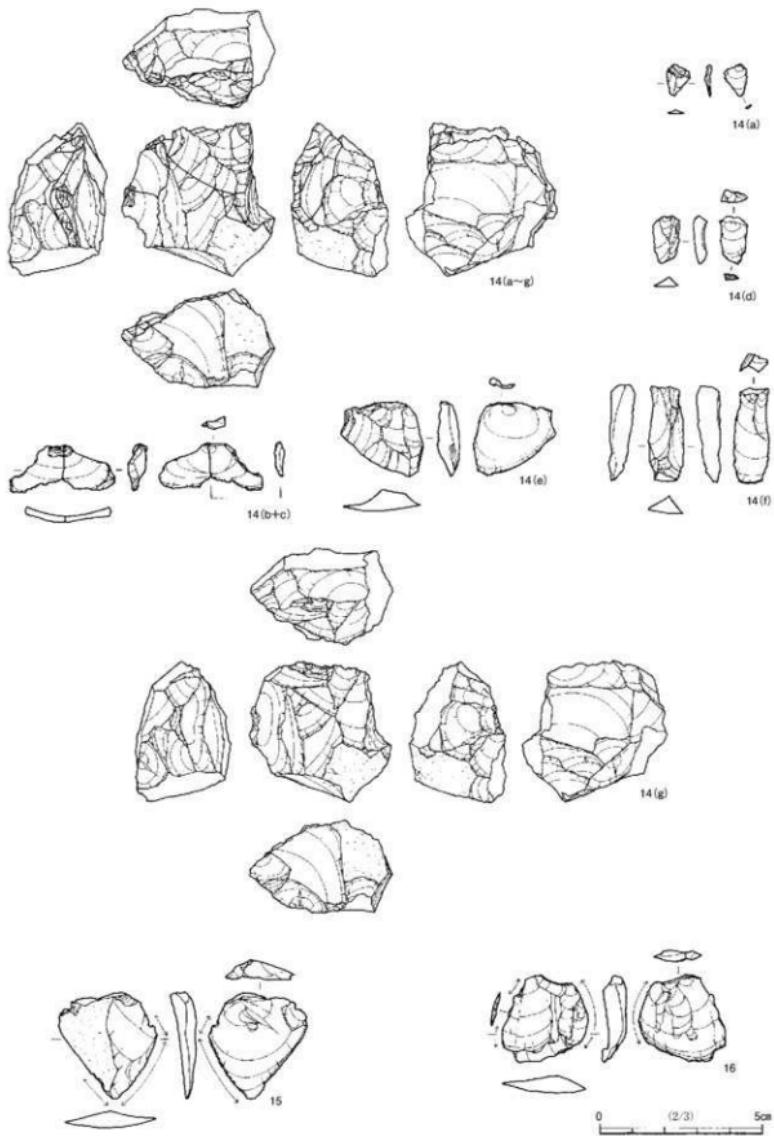


0 (2/3) 5cm

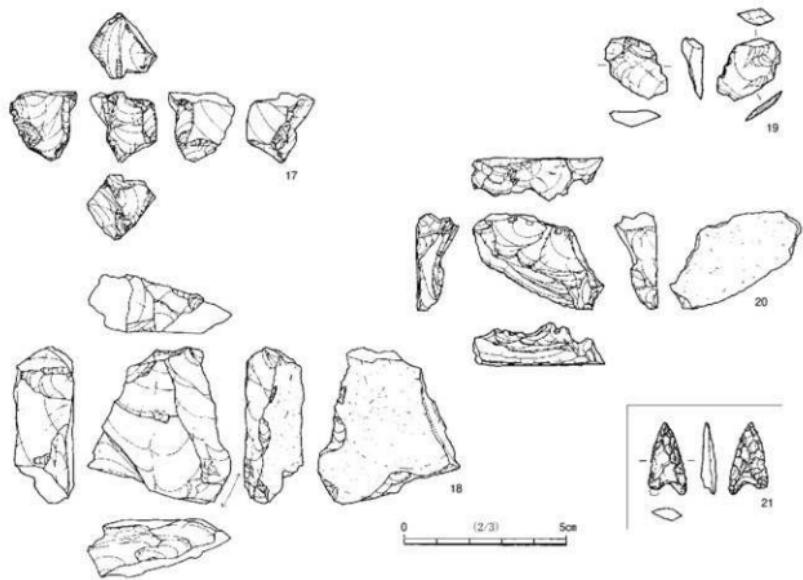
第18図 旧石器時代の遺物(4)



第19図 旧石器時代の遺物(5)



第20図 旧石器時代の遺物(6)



第21図 旧石器時代の遺物(7)・縄文時代の石器

第1表 旧石器時代の石器組成表（器種別）

	ブロック	削器	二次加工のある剥片	微細剝離痕のある剥片	剥片	石核	点数	点数比	重量(g)	重量比
文化層	1	0	2	0	23(24)	2	27(28)	22.95%	126.52	12.42%
	2	0	2	0	33(38)	2	37(42)	34.43%	287.73	28.24%
	3	1☆1(2)	2	☆18(21)	5	☆27(31)	25.41%	454.30	44.58%	
	4	0	0	2	12(14)	0	14(16)	13.11%	41.72	4.09%
	文化層単独出土	0	0	0	1	0	1	0.82%	56.67	5.56%
文化層 小計		1	5(6)	4	87(98)	9	106(118)			
点数比		0.82%	4.92%	3.28%	80.33%	7.38%		96.72%		
重量(g)小計		43.83	19.80	16.09	386.62	500.80			966.94	
重量比		4.30%	1.94%	1.58%	37.94%	49.12%				94.89%
単独出土		0	0	0	1	3	4			
点数比		0.00%	0.00%	0.00%	0.82%	2.46%		3.28%		
重量(g)小計		0.00	0.00	0.00	1.79	50.32			52.11	
重量比		0.00%	0.00%	0.00%	0.18%	4.94%				5.11%
点数合計		1	5(6)	4	88(99)	12	110(122)			
点数比		0.82%	4.92%	3.28%	81.15%	9.84%		100.00%		
重量(g)合計		43.83	19.80	16.09	388.41	550.92			1019.05	
重量比		4.30%	1.94%	1.58%	38.11%	54.06%				100.00%

※( )は出土点数

☆は第2ブロックと第3ブロックとの接合(接1・接5)を含む

第2表 旧石器時代の石器組成表（石材別）

	ブロック	ガラス質 墨色安山岩	トロトロ石	流紋岩	黒曜石	珪質頁岩	福岡産 珪質頁岩	チャート	玉髓	点数	点数比	重量(g)	重量比
文化層	1	0	1	0	0	3	0	23(24)	0	27(28)	22.95%	126.52	12.42%
	2	25(29)	5	1	0	1	1	0	4(5)	37(42)	34.43%	287.73	28.24%
	3	☆1(1)	2	3	0	0	8(10)	5	0	☆27(31)	25.41%	454.30	44.58%
	4	0	0	0	0	!	0	13(15)	0	14(16)	13.11%	41.72	4.09%
	文化層単独出土	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.82%	56.67	5.56%
文化層 小計		34(40)	8	4	0	5	10(12)	41(44)	4(5)	106(118)			
点数比		32.79%	6.56%	3.28%	0.00%	4.10%	8.20%	36.07%	4.10%		96.72%		
重量(g)小計		351.87	201.79	90.22	0.00	47.78	136.88	130.21	8.19			966.94	
重量比		34.53%	19.80%	8.85%	0.00%	4.69%	13.43%	12.78%	0.80%				94.89%
単独出土 小計		0	0	0	1	0	0	3	0	4			
点数比		0.00%	0.00%	0.00%	0.82%	0.00%	0.00%	2.46%	0.00%		3.28%		
重量(g)小計		0.00	0.00	0.00	6.15	0.00	0.00	45.96	0.00			52.11	
重量比		0.00%	0.00%	0.00%	0.60%	0.00%	0.00%	4.51%	0.00%				5.11%
点数合計		34(40)	8	4	1	5	10(12)	44(47)	4(5)	110(122)			
点数比		32.79%	6.56%	3.28%	0.82%	4.10%	9.84%	38.52%	4.10%		100.00%		
重量(g)合計		351.87	201.79	90.22	6.15	47.78	136.88	176.17	8.19			1019.05	
重量比		34.53%	19.80%	8.85%	0.60%	4.69%	13.43%	17.29%	0.80%				100.00%

※( )は出土点数

☆は第2ブロックと第3ブロックとの接合(接1・接5)を含む

第3表 第1ブロック組成表

母岩 / 器種	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数	点数比	重量(g)	重量比
トロトロ石 1	0	1	0	1	35%	0.07	0.06%
珪質頁岩 2	0	1	0	1	35%	1.126	8.90%
珪質頁岩 4	1	0	1	2	7.14%	25.54	20.19%
チヤート 2	0	3	1	4	14.29%	39.83	31.48%
チヤート 4	1	0	0	1	35%	4.09	3.23%
チヤート 5	0	11	0	11	39.29%	9.56	7.56%
チヤート 7	0	6(7)	0	6(7)	25.00%	36.00	28.45%
チヤート 9	0	1	0	1	35%	0.17	0.13%
合計	2	23(24)	2	27(28)	100.00%	126.52	100.00%

※( )は出土点数

点数比	7.14%	85.71%	7.14%	100.00%	
重量(g)	6.09	57.94	62.49	126.52	
重量比	4.81%	45.80%	49.39%	100.00%	

第4表 第2ブロック組成表

母岩 / 器種	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数	点数比	重量(g)	重量比
ガラス質黒色安山岩 1	0	1	0	1	2.38%	5.46	1.90%
ガラス質黒色安山岩 2	0	22(26)	0	22(26)	61.90%	51.13	17.77%
ガラス質黒色安山岩 3	1	1	0	2	4.76%	5.37	1.87%
トロトロ石 1	1	3	1	5	11.90%	156.39	54.35%
流紋岩 2	0	1	0	1	2.38%	2.27	0.79%
珪質頁岩 3	0	1	0	1	2.38%	6.48	2.25%
稚岡産珪質頁岩 1	0	0	1	1	2.38%	52.44	18.23%
玉髓 1	0	1(2)	0	1(2)	4.76%	4.69	1.63%
玉髓 2	0	1	0	1	2.38%	2.69	0.93%
玉髓 3	0	1	0	1	2.38%	0.49	0.17%
玉髓 4	0	1	0	1	2.38%	0.32	0.11%
合計	2	33(38)	2	37(42)	100.00%	287.73	100.00%

※( )は出土点数

点数比	4.76%	90.48%	4.76%	100.00%	
重量(g)	9.53	87.89	190.31	287.73	
重量比	3.31%	30.55%	66.14%	100.00%	

第5表 第3ブロック組成表

母岩 / 器種	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	点数	点数比	重量(g)	重量比
ガラス質黒色安山岩 1	0	0	0	☆0(1)	1	☆1(2)	6.90%	126.29	27.80%
ガラス質黒色安山岩 3	0	☆0(1)	0	6	2	☆8(9)	31.03%	163.62	36.02%
トロトロ石 2	1	0	1	0	0	2	6.90%	45.33	9.98%
流紋岩 1	0	0	0	0	0	2	6.90%	78.86	17.3%
流紋岩 3	0	0	0	1	0	1	3.45%	9.09	2.00%
稚岡産珪質頁岩 1	0	0	1	7(9)	0	8(10)	27.59%	27.77	6.11%
チヤート 1	0	1	0	3	0	4	13.79%	2.77	0.61%
チヤート 8	0	0	0	0	1	0	3.45%	0.57	0.13%
合計	1	☆1(2)	2	☆18(21)	5	☆27(31)	100.00%	454.30	100.00%

※( )は出土点数

点数比	3.23%	6.45%	6.45%	67.74%	16.13%	100.00%	
重量(g)	43.83	4.18	7.28	151.21	247.80	454.30	
重量比	9.65%	0.92%	1.60%	33.28%	54.55%	100.00%	

第6表 第4ブロック組成表

母岩 / 器種	微細剥離のある剥片	剥片	点数	点数比	重量(g)	重量比
珪質頁岩 1	1	0	1	6.25%	4.50	10.79%
チヤー一ト 1	0	7(9)	7(9)	56.25%	13.90	33.32%
チヤー一ト 3	0	1	1	6.25%	8.03	19.25%
チヤー一ト 6	1	4	5	31.25%	15.29	36.65%
合計	2	12(14)	14(16)	100.00%	41.72	100.00%

※( )は出土点数

点数比	12.50%	87.50%	100.00%	
重量(g)	8.81	32.91	41.72	
重量比	21.12%	78.88%	100.00%	

第7表 母岩観察表

母岩名	色調			節理	光沢		夾雜物	出土ブロック	備考
	原表面	剥去面	透明感		欠損面	原表面			
ガラス質黒色安山岩 1	黄褐色	暗褐色	なし	無	なし	×	×	なし	2,3
ガラス質黒色安山岩 2	暗褐色	暗褐色	なし	無	少	×	×	黒1mm粒	2
ガラス質黒色安山岩 3	暗灰色	暗灰色	なし	無	無	×	×	黒褐色細少	2,3
トロコ石 1	明灰色	明灰色	なし	無	無	×	×	白0.5mm少	1,2
トロコ石 2	明黄色	明灰色	なし	無	無	少	×	白0.2mm少	3
透紋岩 1	灰白色	灰白色	なし	—	少	○	×	透明0.5mm少	3
透紋岩 2	明灰色	灰白色	なし	—	少	—	—	透明0.5mm少	2
透紋岩 3	黄褐色	暗褐色	なし	—	少	△	×	白0.2mm無	3
珪質頁岩 1	オーブ状	暗緑色	なし	—	なし	○	○	なし	4
珪質頁岩 2	暗緑色	暗緑色	なし	—	少	△	×	なし	1
珪質頁岩 3	緑色	暗緑色	なし	—	なし	△	○	なし	2
珪質頁岩 4	明黄色	暗褐色	なし	—	なし	×	○	なし	3
網開産珪質頁岩 1	黄～暗褐色	暗褐色	なし	—	なし	○	×	なし	2,3,7北側半層
チヤート 1	暗褐色	暗褐色	なし	—	少	○	○	なし	2,4
チヤート 2	なし	暗褐色	なし	—	少	—	○	なし	1
チヤート 3	黄褐色	青灰～暗灰色	△	—	少	×	○	なし	4
チヤート 4	黑色	暗褐色	なし	—	少	△	無	なし	1
チヤート 5	薄緑色	淡緑～濃緑	○	—	多	×	○	なし	1
チヤート 6	薄茶色	淡青緑～黃褐色	○	—	多	○	○	なし	4
チヤート 7	薄茶色	淡青緑～黃褐色	○	—	多	—	○	なし	1
チヤート 8	なし	小豆色	なし	—	なし	×	×	なし	3
チヤート 9	茶色	褐色	なし	—	なし	×	×	なし	1
チヤート A	濃灰色	濃灰色	なし	—	なし	—	○	なし	単純
チヤート B	なし	淡褐色～褐色	△	—	なし	×	○	なし	単純
チヤート C	灰白色	黒褐色	△	—	なし	×	○	なし	単純
玉髓 1	明黄色	明褐色	△	—	なし	—	無	なし	2
玉髓 2	なし	明黃白色	△	—	なし	—	無	なし	2
玉髓 3	なし	明黃白色	△	—	なし	—	無	なし	2
玉髓 4	なし	明黃白色	△	—	なし	—	無	なし	2
黒曜石	△	赤みある黒色	○	—	なし	△	○	なし	単純

第8表 旧石器時代出土遺物一覧表

種別 番号	枚番	グリニ宇	出土 場所	プロト	番種	石材	母岩 番号	ブロック 間接合	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
1	3T-81	IX	I	二次加工のある調片	珪質頁岩	4			14.50	21.30	6.20	2.00	
2	3T-81	IX	I	二次加工のある調片	チャート	4			22.00	34.10	8.40	4.09	種底調片 先端部に使用痕
3	3T-81	IX	I	石核	珪質頁岩	4			45.00	38.00	16.50	23.54	丸頭と微細な溝離痕、後に摩耗痕
4	a	2T-99	IX	2 調片	玉髓	1			16.00	25.00	7.00	2.34	2T-99-11と2月で1点の調片 進存R 開合時: 16.50mm × 49.90mm × 11.50 mm 4.70g
4	b	2T-99	IX	2 調片	玉髓	1			11.33	27.00	11.50	2.35	2T-99-22と2月で1点の調片 進存L
5	a	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			35.00	37.00	12.40	13.12	粘土質素材
5	b	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			17.30	22.50	6.25	1.75	2T-99-29と2月で1点の調片 進存R 開合時: 17.30mm × 26.20mm × 6.80 mm 2.20g
5	c	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			14.23	5.80	5.50	0.45	2T-99-04と2月で1点の調片 進存L
5	d	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			31.80	12.50	8.20	2.21	
6	a	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			23.00	44.00	10.60	8.99	
6	b	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	2			23.20	16.80	5.10	2.81	打削直下折れ
7	a	3U-00	IX	2 二次加工のある調片	トロトロ石	1			32.80	24.10	9.00	4.84	前回取りによる成形 刃部磨耗し丸み帯びる
7	b	2T-99	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	1			31.00	31.30	14.30	12.62	
7	c	2T-99	IX	2 石核	トロトロ石	1			60.00	76.00	33.30	137.87	
8		3U-00	IX	3 二次加工のある調片	チャート	1			25.25	16.00	5.95	1.71	無縫が吸収する刀型か 先端刃口こぼれ
9		3U-00	IX	3 微細剥離痕のある調片	銀洞産珪質頁岩	1			25.45	27.33	9.75	5.78	平面形は円形状 微細剥離痕の一部は網状 板状材の石核 線に微細剥離痕
10		2U-09	IX	3 石核	流紋岩	1			23.50	55.50	33.33	34.60	青灰色の剥離面と淡黄褐色で微光沢のある 流紋岩
11	a	3U-00	IX	3 銀細剥離痕のある調片	トロトロ石	2			17.60	26.90	6.95	1.50	縁辺刃口こぼれ
11	b	2U-09	IX	3 剥離	トロトロ石	2			32.00	51.75	18.00	43.83	調査角66°-70°
12	a	3U-00	IX	3 調片	ガラス質黒色安山岩	1	2 + 3 ブロック		25.50	28.65	12.00	7.59	2U-09-03 (第2ブロック) と2月で1点の 調片 進存R 開合時: 38.10mm × 36.00mm × 12.00mm 13.05g
12	b	2U-09	IX	2 調片	ガラス質黒色安山岩	1	2 + 3 ブロック		30.00	35.00	9.25	5.46	2U-09-08 (第3ブロック) と2月で1点の 調片 進存R
12	c	3U-00	IX	3 石核	ガラス質黒色安山岩	1	2 + 3 ブロック		28.45	57.50	58.00	118.00	溝丸と角形状 自然面はローム鉱物の黄土色 剥離面は濃灰色で黒色の風呂がまばらに入る 下台地直営の一般的なガラス 質黒色安山岩
13	a	2U-09	IX	3 石核	ガラス質黒色安山岩	3	2 + 3 ブロック		41.10	49.80	22.75	30.24	2U-09-02 (第2ブロック) と2月で1点の 二次加工のある調片 進存R 開合時: 35.50mm × 28.90mm × 10.00mm 7.16g
13	b	2U-09	IX	3 二次加工のある調片	ガラス質黒色安山岩	3	2 + 3 ブロック		12.75	22.33	10.00	2.47	2U-09-03 (第3ブロック) と2月で1点の 二次加工のある調片 進存R 開合時: 35.50mm × 28.90mm × 10.00mm 7.16g
13	c	2U-09	IX	2 二次加工のある調片	ガラス質黒色安山岩	3	2 + 3 ブロック		24.50	28.50	8.80	4.69	2U-09-05 (第3ブロック) と2月で1点の 二次加工のある調片 進存R 開合部に細かな使用痕
14	a	2U-09	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		10.00	7.25	2.20	0.10	
14	b	2U-09	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		14.20	16.40	4.00	0.69	2U-00-01と2月で1点の調片 横長 進存L 開合時: 14.20mm × 32.00mm × 6.00 mm 1.28g
14	c	3U-00	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		13.90	16.25	5.50	0.59	2U-09-09と2月で1点の調片 横長 進存R
14	d	3U-00	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		15.00	8.50	4.10	0.46	
14	e	3U-00	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		23.10	25.45	7.00	3.71	
14	f	3U-00	IX	3 調片	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		29.00	11.10	7.50	2.25	両開縫と背棱が並行する調片
14	g	2T-99	IX	2 石核	銀洞産珪質頁岩	1	2 + 3 ブロック		43.20	44.00	29.15	53.44	
15		3U-00	IX	4 微細剥離痕のある調片	珪質頁岩	1			32.30	30.40	7.80	4.50	無縫に微細剥離痕
16		3U-00	IX	4 微細剥離痕のある調片	チャート	6			26.60	26.90	7.60	4.31	青・緑・透明が斑状 伝統小深沢斧か 棘上に細かな漕れ (レイジション) がみられる
17		2U-07	VI?	單體 石核	黑曜石				21.50	20.50	20.00	6.15	
18		2U-21	IX	單體 石核	チャート	A			48.20	44.00	18.10	31.63	
19		2U-13	IX	單體 調片	チャート	B			19.00	19.80	6.90	1.79	褐色を基調とし黄色の崩し状構造を持ち 所々緑や赤みを帯びるチャート 光沢強い
20		3U-40	IX	單體 石核	チャート	C			30.00	40.33	13.25	12.54	
21		3U-55	IX	單體 石核	鶴見玄武岩				22.10	12.00	4.60	0.91	細縫状無筋凸基盤 斧脚欠損 結構強い

## 第3章 繩文時代の遺構と遺物

### 第1節 周辺の遺跡（第1図）

高堀遺跡は物井地区遺跡群の西端に位置し、印旛沼から入る谷に南面して存在する。

本地域は、縄文時代後期～晩期にかけての遺跡が、密集していることでも知られる地域である。

古くは縄文時代後期～晩期の包含層及び堅穴住居跡を検出した千代田遺跡群（第1図8・9・16～18・19）、同じく内黒田遺跡群中の大削遺跡（4）・池花遺跡（6）においては縄文時代後期～晩期の良好な遺物を出土したことで知られる。また物井地区内の縄文期の遺構・遺物に関しては他の時期、特に古墳時代から奈良・平安時代の濃密な遺構の存在に比べると、その影は薄いものがある。物井駅前に立地する鷲越遺跡（24）においては加曾利B式期～安行II式期を中心とする大量の土器・土偶などの出土が見られ、この谷筋における縄文時代の遺跡の特異な一端を見ることができる。

### 第2節 検出された遺構（第22図～24図、図版4）

縄文時代の遺構は3基検出されている。内訳は、陥穴、土坑、堅穴状遺構各1基である。

#### (1) SK-001 陥穴（第23図、図版4）

検出されたグリッドは2U-56・57で、調査区の南側、東関東自動車道寄りの部分に位置する。昭和62年度調査区で検出した。

上面長径長1.9m、底部長径0.9m、上面短径長1.2m、底部短径0.2m、深さは確認面（ソフトローム層上面）より2.5mを測る。土坑底面にはピットなどの施設は確認されなかった。

なお、遺構内からは土器などの遺物の検出はない。

#### (2) SK-002 土坑（第23図）

対象調査区のほぼ中央、台地平坦部より検出された。検出されたグリッドは2U-10・2U-15である。昭和62年度調査区に位置する。

上面長径長1.6m、同短径0.5m、部長形長1.3m、同短径長0.3m、確認面よりの深さは0.4mを測る。上面は不整形を示すもおおむね円形である。遺構内よりの遺物の出土はない。

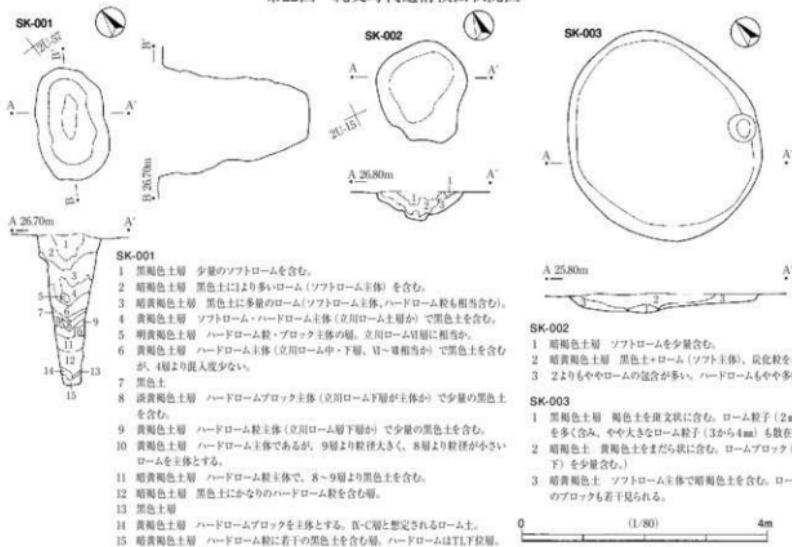
#### (3) SK-003 堅穴状遺構（第23・24図、図版5）

平成12年度調査区、谷に向かう傾斜部より検出された。グリッドは3U-82で調査区境界に位置する。上面長径長3.4m、同短径長3.2m、底部長径長3.2m、同短径長3.0m、確認面よりの深さは0.3mを測る。南北方向を長軸とする楕円形気味の平面形である。東壁に柱穴状のものが見られるが、上部より掘り込まれた時期不明のものである。遺物は遺構内から、粗い縄文に条線を施した縄文土器が検出された。縄文時代後期加曾利B式期のものと考えられる。覆土上面のため、明確に当遺構に伴うかは明瞭ではない。遺構自体は該当期より若干遡る時期となる可能性もある。

直徑などを考慮した場合、住居跡としての可能性はないものと考えられる。周辺も含め炉穴など生活痕跡が確認されていないことから単独で設けられた堅穴状遺構とする。



第22図 縄文時代遺構検出状況図



第23図 SK-001・SK-002・SK-003

### 第3節 検出された遺構外の遺物

#### 1 縄文土器 (第24図、図版7)

縄文土器が調査区から検出されている。1～3は粗い縄文を全面に施し横位の沈線を加えている。1は口縁部に棒状工具による横圧施文が施される。4～8は口縁がやや内湾する深鉢となろうか。口縁部を無文とし横位1条の沈線で区画した後、胴部を縄文で施文している。9は縄文のみ施文された深鉢の胴部である。時期的には縄文時代後期後半期と考えられる。

#### 2 石器 (第21図21、図版6)

2U-55から石鏃が検出された。幅の狭い細身の凹基無茎鏃で、最大厚は脚部にある。外周からの剥離が器体中央部に達していない。片脚部先端は欠損している。石基の黒い粗粒玄武岩製で、斑晶は抜け落ちて小さな穴となっており、褐色の細かい粒子が穴を塞ぐ。磁性は強く、ネオジム磁石が1cmの距離から吸い寄せられるという特性を有する。



第24図 縄文土器

## 第4章　まとめ

高堀遺跡は物井地区遺跡群の最西端に位置する。

本遺跡の所在する台地西側は、現在では池花団地と呼ばれる団地となっている。この団地の造成に際して内黒田遺跡群として知られる一群の遺跡が発掘調査され、7期に渡る旧石器時代文化層が合計19ブロックが検出された。また高堀遺跡の所在する台地の北側は清水遺跡、東側は出口・鐘塚遺跡であり、見方によればこの出口・鐘塚遺跡の西端とも言える位置になる。物井遺跡群においては、各遺跡より10~20カ所以上の石器集中地点の検出が報告されており、隣接する内黒田遺跡群とともに濃密な生活痕跡を残している。環状ブロックを構成する大規模な生活跡に対して、本遺跡から出土した旧石器時代の石器は総点数で122点であり、周辺遺跡と比較すれば4ブロックの小規模な痕跡ではあるが、各文化層における石材の組成などは周辺遺跡と同様の傾向を保ち、また第1ブロックに見られるチャート(5・7)が目視での観察ではあるが、奥多摩町梅沢のチャートと類似すると考えられることから、広範な地域間交流のなかに物井遺跡群は成立しているものと考えられる。ちなみにこの特徴的なチャートは出口・鐘塚遺跡においても利用されていることから、単に本遺跡だけではなく当該地域における石材の流通、相互交通と言った点から密接な関係が窺える。

縄文時代の遺物は土器および石器の出土が若干みられた。主とするものは、縄文時代後期加曾利B系の粗製土器片である。南に面する谷沿いには、鷲越遺跡から内黒田遺跡群、北側後背台上に所在した千代田遺跡群を含め、縄文時代後期～晩期にかけての著名な遺跡が知られるが、本遺跡および隣接する出口・鐘塚遺跡においては縄文時代の小堅穴・土坑と陥穴が合わせて7基と、生活痕跡が薄いと言えるだろう。

物井・千代田地区は、縄文時代の後期～晩期にかけての生活痕跡が多くみられるが、この時期において特徴的なものとして、小屋ノ内遺跡における石器製作跡や石錐を中心とする大量の未製品の出土があげられようか。石錐自体の未製品は少ないものの、剥片などの数量は1万点にも及ぶ。この製作時期は、周辺出土土器との関連をみる限りでは、やはり縄文時代後期～晩期初頭となるようである。

当遺跡においては、図示した縄文土器がそのほとんどであり、他遺跡において中心となる遺物の出土もみられない。縄文時代における集落間の空白域とみなすことのできるエリアと考えられるものである。

# 写 真 図 版



高堀遺跡

図版2



昭和62年度 調査前状況（北より）



平成12年度 調査前状況（北より）



第1ブロック遺物出土状況（西から）



第3・4ブロック遺物出土状況（南から）



SK-001全景（東より）



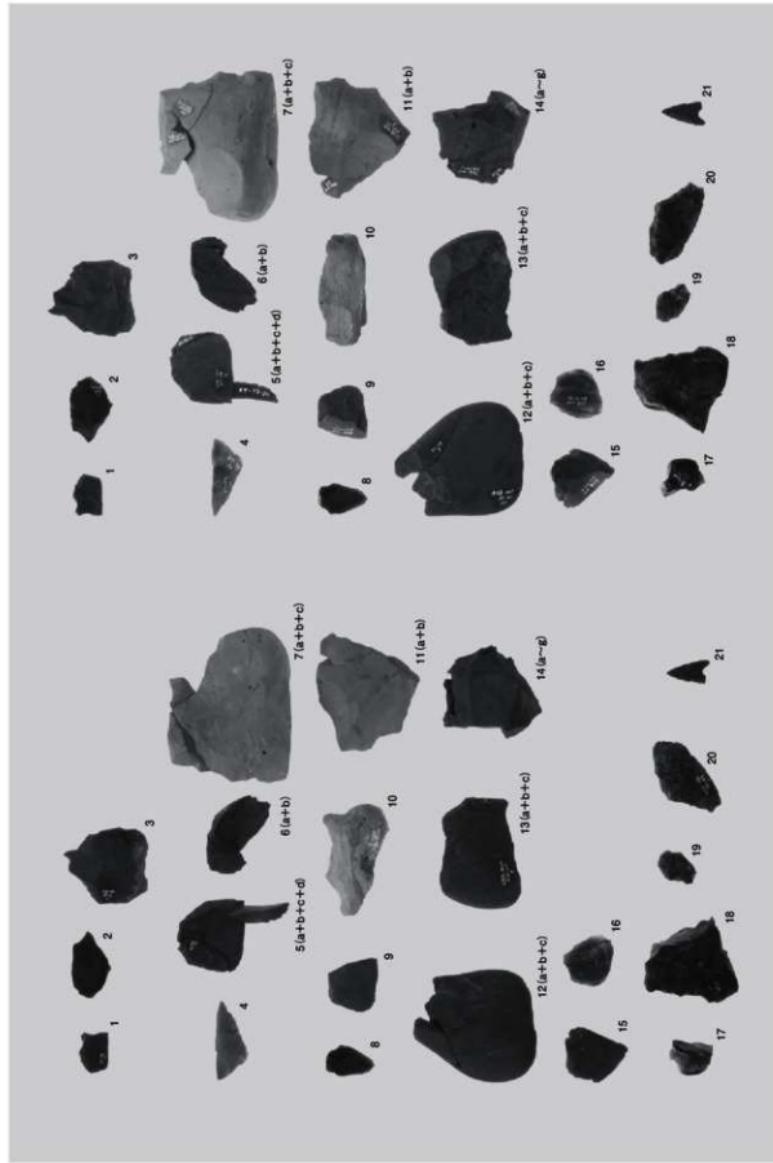
SK-001断面



SI-003全景（西より）



SI-003セクション（北西より）



旧石器時代・縄文時代石器 表・裏



縄文土器



発掘調査風景（東より）



遺跡調査前状況（南より）



2U-48 付近下層確認状況（東より）



3U-90 旧石器出土状況（東より）

## 報告書抄録

千葉県教育振興財團調査報告書752集

## 四街道市高堀遺跡

- 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XXI -

---

平成28年3月25日発行

編 集 公益財團法人 千葉県教育振興財團  
発 行 独立行政法人 都市再生機構  
首都圏ニュータウン本部  
東京都新宿区西新宿6-5-1

公益財團法人 千葉県教育振興財團  
四街道市施渡809番地の2

印 刷 株式会社 エリート情報社[印刷出版局]  
成田市東和田415-10

---